

日本免疫毒性学会 2024年 総会

議事次第

I. 理事長挨拶（齋藤理事長）

II. 報告事項

[1] 総務報告（小島総務委員長）

- ① 会員数、入退会状況
- ② 役員数
- ③ 学会Webサイトバナー契約現状
- ④ 評議員推薦
- ⑤ 事務局業務外部委託、他

[2] 学術年会報告

- ① 第30回開催報告（中村前年会長）
- ② 第31回開催報告（黒田年会長）

[3] 委員会報告

- ① 学術・編集委員会（黒田委員長）
 - (1) ImmunoTox Letter 発刊
 - (2) 学会賞・奨励賞選考
 - (3) JSIT ImmunoTox Protocol
- ② 広報委員会（吉岡委員長）
- ③ 試験法委員会（坂入委員長）
 - (1) 試験法ワークショップ
 - (2) AOP小委員会
 - (3) JaCVAM関係

④ 連携学会委員会（西村委員長）

- (1) SOT-ITSSとの国際交流
- (2) 毒性学会での合同シンポジウム

⑤ 将来構想委員会（串間委員長）

- (1) 入会初年度の年会費無料制度と入会状況
- (2) 将来構想委員会主催による技術セミナーの開催

[4] 事業報告（齋藤理事長）（業務年度：10月から翌年9月末）

III. 審議事項

[1] 人事（小島総務委員長）

- ① 新評議員
- ② 次々期・第32回年会長

[2] 会計（小池理事）（会計年度：4月から翌年3月末）

- ① 2023年度決算案
- ② 2023年度監査報告
- ③ 2024年度修正予算（参考）
- ④ 2025年度予算案

[3] 財務シミュレーションと学会財政の健全化に向けて（齋藤理事長、小池理事）

[4] 理事年会費の増額時期について（齋藤理事長）

[5] JSIT Travel Award for SOTについて（西村連携学会委員長、齋藤理事長）

[6] 事業計画（齋藤理事長）

IV. 次期、次々期 年会長挨拶

報告事項

事務局報告 (1)

会員動向 & 会費納入状況

◆2023年度の会員数(2023/4~2024/3)

会員種別	4月	3月	増減
一般会員	163	168	5
学生会員	15	21	6
賛助会員	1	2	1
名誉会員	12	13	1
総数	191	204	13

◆2024年度の会員数(8月23日現在)

会員種別	4月	8月	増減
一般会員	169	182	13
学生会員	21	35	14
賛助会員	2	2	0
名誉会員	13	13	0
総数	205	232	27

◆2023年度入退会(2023/4~2024/3)

会員種別	入会	退会	増減
一般会員	12	5	7
学生会員	7	1	6
賛助会員	0	0	0
総数	19	6	13

退会者のうち一般2名、学生1名は会則(会員)第5条(2)により退会(会費未納による退会)

◆2024年度入退会(8月23日現在)

会員種別	入会	退会	増減
一般会員	13	0	13
学生会員	14	0	14
賛助会員	0	0	0
総数	27	0	27

一般会員8名中2名が初年度会費無料の会員

◆2023年度末会費納入状況

	3月末
未納なし	163
未納あり	26
合計	189

* 会費納入は名誉会員と2名の初年度年会費無料会員を除く

◆2024年度末会費納入状況

	8月
未納なし	129
未納あり	77
合計	206

* 会費納入は名誉会員と13名の初年度年会費無料会員を除く

役員数

◆2023年の役員数

	4月	10月	3月
理事	20	20	20
評議員	38	40	40
監事	2	2	2

◆2024年の役員数

	4月	10月	3月
理事	20	20	-
評議員	40	42?	-
監事	2	2	-

バナー広告

現在掲載中 (1社)	フォーネスライフ株式会社	5/1更新
---------------	--------------	-------



評議員推薦

- 評議員候補につきましては、2024年7月29日から8月23日の期間、評議員2名による推薦を受け付けました。理事会（2024年9月18日）において推薦候補として了承され、総会（2024年9月19日）において承認を得ます。

事務局業務の外部委託

- 今年4月よりアクセライト社への業務委託が開始されました。

その他

- 会員の異動、会員（名誉・一般・学生・賛助会員・休会員）数の推移と会費納入状況の把握、自動退会（会費未納退会）の整理等の事務
- 外部からの問い合わせ対応

期日	2023.9.11-13
会場	Shimadzu Tokyo Innovation Plaza他
年会長	中村 亮介 国立医薬品食品衛生研究所 医薬安全科学部・第三室長
テーマ	社会に求められる新たな免疫毒性研究
年会賞	富山大学大学院 和漢医薬研 薄田 健史 旭川医科大学 医学部 原 英樹
学生・若手優秀発表賞	近畿大学 薬学部 酒井 貴之
同時開催	第81回日本産業衛生学会アレルギー免疫毒性研究会
共催	日本産業衛生学会アレルギー免疫毒性研究会
協賛	日本衛生学会・日本食品衛生学会・日本毒性学会・日本毒性病理学会・日本薬学会
後援	日本アレルギー学会



薄田 健史 先生



原 英樹 先生



酒井 貴之 先生

第31回 日本免疫毒性学会 学術年会
The 31st Annual Meeting of the Japanese Society of Immunotoxicology (JSIT2024)

免疫毒性研究から環境・医療を見つめる

期 2024年9月19日(木)～20日(金)

会 兵庫医科大学 平成記念会館
〒663-8550 兵庫県西宮市武庫川町1-1
アクセス 阪神西宮駅から徒歩12分、武庫川駅下車 徒歩3分

年 黒田悦史 (兵庫医科大学医学部免疫学講座)

プログラム

1日目 9月19日(木) 「環境と免疫毒性」
特別講演 善本隆之先生(東京医科大学)他
シンポジウム 環境とアレルギー最新知見

2日目 9月20日(金) 「医薬品開発 有効性と安全性」
特別講演 保富康宏先生(医薬基盤健康栄養研究所)
シンポジウム 新しいワクチン・免疫療法の有効性と安全性

その他: 一般演題(口頭・ポスター)、若手・学生セッション、試験法ワークショップなど

非会員の入会初年度年会費無料制度がございます。初年度は参加費のみで発表できます！
詳しくは日本免疫毒性学会HP (<https://www.japanimmunotox.org/>) まで

期日	2024.9.19-20
会場	兵庫医科大学 平成記念会館
年会長	黒田 悦史 兵庫医科大学医学部 免疫学講座・教授
テーマ	免疫毒性研究から環境・医療を見つめる
協賛	日本衛生学会・日本食品衛生学会・日本毒性学会・日本毒性病理学会・日本薬学会
後援	日本アレルギー学会
演題数	一般口頭 10、一般ポスター 22、若手 (口頭・ポスター) 12 計 44
講演	特別講演 3、受賞講演 2、シンポジウム 6、試験法WS 3、 ランチョン 2
事前登録参加	会員 66、非会員 14、学生 17、協賛・後援学会員 9、 名誉会員 1、計 107名

1. 学会賞・奨励賞選考結果

学会賞・奨励賞選考小委員会（委員長、井上智彰先生）で選考が行われ、理事会の承認を得て、第14回（2023）の受賞者は下記の通りに決定した。

学会賞 **吉田貴彦** 先生（旭川医科大学名誉教授）

※環境との相互作用の中で生命を衛る医学の源流：免疫毒性学 一細分化された研究から統合的視点をもった研究へー

奨励賞 **佐々木泉** 先生（和歌山県立医科大学）

※病原体センサーを介したサイトカイン産生誘導機構に関する研究

2. ImmunoTox Letter 発刊

（WEBに open access、MLにて会員への案内、WEBに掲載）

通巻56号（28巻2号） 2023年12月発刊

- 第31回日本免疫毒性学会学術年会（予告1）
- 第30回日本免疫毒性学会学術年会報告
- 第30回日本免疫毒性学会学術年会 年会賞、学生・若手優秀発表賞
- 世界初！日本におけるOECD免疫毒性テストガイドラインの開発について 他

通巻57号（29巻1号） 2024年6月発刊

- 第31回日本免疫毒性学会学術年会（予告2）
- 第13回日本免疫学会学会賞、第13回日本免疫毒性学会奨励賞
- 寄稿：炎症性疾患とケモカイン受容体CCR4
- Short talks on the shoulders of giants 他

3. JSIT ImmunoTox Protocol

学術編集委員のメンバーから3人にプロトコルを依頼し、作成、会員専用サイトにアップしました。

1. SNS発信 (Facebook、Twitter)

- ・年会について発信。今後も、大きな案件を発信予定。

2. 新しいHPへの移行

【目的：経費削減が主】

- ・HTTPSへの変更によるセキュリティ向上
- ・年会HPの恒久的な維持（乗っ取り防止も含む）→学会HP内に年会HP
- ・HP更新費用の削減
- ・年会運営を含めたコストカット

【経緯】

- ・231227：運営委員会で承認⇒240126：センキョウに依頼⇒240430：リニューアル⇒学会員にも周知

【旧HP】

- ・福田印刷にも連絡済み。解約に特別な手続きは必要無し。
- ・さくらインターネットとも契約を解除。一方で、さくらインターネットのレンタルサーバーが2025/2/28までの契約になっており、旧HPは2025/2/28まで運用される。
- ・旧HPにアクセスしても新HPに移行するように設定

【予算について】

- ・当初、60-70万円を予定しており、複数年の分割払いを予定していた。一方で、37万円（税込）になったことから、一括払いを予定している。
- ・年間の維持費は71,500円（税込）で、これまで（2022年132,495円、2021年101,035円、2020年114,950円、2019年238,228円）よりも安くなっている。

第31回免疫毒性学会学術年会での試験法ワークショップ「免疫原性評価」を企画しました。発表演題は以下のとおりです。

- 「バイオ医薬品の免疫原性予測・評価に関する現状と課題」
国立医薬品食品衛生研究所 石井 明子 先生
- 「バイオ医薬品の免疫原性評価戦略及び事例紹介」
第一三共株式会社 浜村 えり 先生
- 「中外製薬におけるエンジニアリング抗体の免疫原性低減化戦略」
中外製薬株式会社 橋本 永一 先生
- 総合討論

1. 開発中のAOP

以下の3件について、ジャーナルへの投稿を目指して対応中である。

1) AOP315 : JAK3阻害によるTDAR抑制

吉田安宏, 福山朋季, 後藤玄 (コーチ: Shihori Tanabe)

進捗: Alternatives to Animal Experimentation (ALTEX) 誌への投稿を目指し, 投稿原稿を準備中.

2) AOP313 : Toll様受容体 (TLR) 7/8活性化による乾癬様皮膚疾患の誘発

小松弘幸, 秦信子, 松村匠吾 (コーチ: Julija Filipovska)

進捗: Archives of Toxicology誌への投稿を目指し, 投稿原稿を準備中.

3) AOP314 : エストロゲン受容体活性化による全身性エリテマトーデスの増悪

大坪靖治, 小西寿美恵, 伊藤志保, 田食 理沙子 (コーチ: Sabina Halappanvar)

進捗: Toxicology Letters誌への投稿を目指し, 投稿原稿を準備中.

2. JaCVAMの依頼により開発を引き継いだAOP

AOP277 : Impaired IL-1R1 signaling leading to increased susceptibility to infection

進捗: OECDで承認され, 2023/10/23付でAOP No. 30としてOECD iLibraryに収載された.

3. 免疫毒性IATA事例研究

免疫毒性のIATA事例研究について, OECDから作成依頼を受けて対応中.

進捗: 大石先生, 杉本先生を中心に, AOP No. 154で引用している文献の再点検を実施中.

4. JaCVAM関連

9月4日にJaCVAMステークホルダー会議に参加.

5. Position Paper作成

間先生, 久保先生, 松村先生のご協力を得ながら投稿原稿を準備中.

1. SOT2024 ITSS Meetingでの意見交換

米国毒性学会 SOT2024 ITSS Meeting (3月Salt Lake City) に出席し、Dr. Victor J Johnson, Dr. Laine Payton Myers, Dr. Jamie DeWittとJSITとの交流について意見交換を行いました (ImmunoTox Letterへ参加報告を寄稿)。

2. 第31回日本免疫毒性学会学術年会 (2024 年) におけるITSS招聘講師の決定

Immunotoxicology Specialty Section (ITSS) のExecutive Committee Secretaryである**Dr. Allison Ehrlich** (University of California Davis)を指名しました。黒田年会長の招聘に応え、Ehrlich先生から講演の承諾を得ました。演題は、“Regulation of Intestinal Macrophage and CD4 T Cell Differentiation in Autoimmunity: The Role of Aryl Hydrocarbon Receptor-Microbiome Interactions” が予定されています。

3. 日本毒性学会との共同セッション

第52回日本毒性学会 (JSOT) 学術年会 (2025年7月2日-4日、沖縄コンベンションセンター) における合同シンポジウム：**医学を拓く免疫毒性研究の新展開<職業曝露・腸内細菌・代替法・がん・老化>**を企画しました。

座長：西村 泰光 (川崎医科大学 衛生学)、小池 英子 (国立環境研究所 環境リスク・健康領域)

- 「アクリル酸系ポリマーが引き起こす肺の線維化」木戸 尊将 (東京慈恵会医科大学 環境保健医学講座)
- 「化学物質曝露による炎症病態と腸内細菌叢との関連」柳澤 利枝 (国立環境研究所 環境リスク・健康領域)
- 「非ヒト霊長類の代替法に関する研究 -免疫毒性の視点から-」小川 久美子 (国立医薬品食品衛生研究所 病理部)
- 「骨髄由来免疫抑制細胞を介した免疫毒性発現」立花 雅史 (立命館大学 生命科学部 生命医科学科)
- 「老化と感作性疾患 (免疫毒性) に関する研究」福山 朋季 (麻布大学 獣医学部 薬理学研究室)

4. JSIT Travel Award for SOTの提案

SOT-ITSSとの連携強化および若手を中心とした研究活性化を目指してJSIT Travel Award for SOTの創設を提案しました。

1. 入会初年度の年会費無料制度と入会状況について

- ・ 第31回（西宮）：13名が初年度参加無料制度で登録（2024年9月17日時点）
⇒ 過去3年では20名の会員増加につながっている。

2. 将来構想委員会主催の技術セミナーの開催について

【目的】

- ・ 若手研究者の交流の活性化、共同研究のきっかけ
- ・ 基盤技術の維持、試験法の規制展開を見据えた技術共有⇒学術委員会のプロトコール集作成と連携
- ・ 技術セミナーを介した新規会員の獲得

【準備】

- ・ 3月29日に全学会員を対象にセミナー参加を募るメールを配信
- ・ 7月9日に将来構想委員会 web会議を開催し、準備および当日の流れを確認した。
- ・ 当日の委員会側の取りまとめは副委員長の柳澤先生に依頼した（理事会と重なっているため）。
- ・ 参加者への案内文を送付した。

【開催概要】

内容：肺胞マクロファージのin vitro誘導法

日時：2024年9月18日（学術年会前日）13時～17時

場所：兵庫医科大学 免疫学講座

参加費：無料（今回は無料開催としたが、次回以降のセミナーは参加費をいただく可能性あり）

参加人数：5名⇒参加は会員限定としていることから、非学会員の参加希望者1名は学会員増加につながった。

懇親会：セミナー参加者の懇親会を開催

日本免疫毒性学会事業報告（2023年10月から2024年9月）

1. はじめに

第30回学術年会（2023年9月11日～13日、川崎）は盛大に終了いたしました。今年度の第31回学術年会（2024年9月19日～20日、兵庫）は久々の関西での対面開催となりました。初めての試みとして、兵庫医科大学 免疫学講座のご協力の下、「肺胞マクロファージのin vitro誘導法」に関して会員限定のオンサイトセミナーを開催し、5名の参加を得ました。また、JSIT ImmunoTox Protocolと題して、マウス初代ケラチノサイトの培養法等、各種免疫毒性実験に関するプロトコル集の会員限定ホームページでの公開を開始しました。さらに新規モダリティを含め、医薬品に関する免疫毒性評価に関するPosition Paperの作成を行っています。このように、免疫毒性の専門家集団としての学会学術活動は活発化しております。また学会財務としては歳出削減のため、ホームページ業者の変更等を行いました。その他の活動としては、第63回米国トキシコロジー学会年会（2024年3月）における米国トキシコロジー学会免疫毒性専門部会（SOT-ITSS）との共同シンポジウムは今回も見送りとなり、より日本の研究成果をアピールするため、積極的に日本の研究者がSOTで研究成果の発表を行うと共に、ITSSの会議にも参加して日本のプレゼンスをアピールする必要があると考えております。さらに、JaCVAMから委託を受けた事業に関しては今年もAOP開発に多くの学会員が関わり貢献しました。

上記を含め、2023年度の活動につきまして、以下に概要をご報告いたします。

2. 事業内容（活動年度：2023年10月から2024年9月まで）

1) 運営委員会の開催

2023年12月21日と2024年7月18日にリモートで開催されました。

2) 理事会の開催

2024年9月18日に、西宮で開催されました。

3) 総会の開催

2024年9月19日に、学術年会にあわせて対面で開催されました。

4) 第31回日本免疫毒性学会学術年会の開催

第31回日本免疫毒性学会学術年会は、2024年9月19日（木）～20日（金）に西宮市で開催されました。

年会長は黒田悦史 理事（兵庫医科大学医学部・免疫学講座）で、テーマは「免疫毒性研究から環境・医療を見つめる」でした。URL：<https://www.japanimmunotox.org/jsit2024/>

5) ImmunoTox Letterの発行

下記の2号（日本語版、英語版）を刊行しました。

・28巻第2号（通巻56号、2023年12月号）

・29巻第1号（通巻57号、2024年6月号）

6) 第14回（2023年度）学会賞及び奨励賞の授与

学会賞は吉田貴彦先生（旭川医科大学 名誉教授）が「環境との相互作用の中で生命を衛る医学の源流：免疫毒性学 一細分化された研究から統合的視点をもった研究へ」の研究で受賞されました。

奨励賞は佐々木泉先生（和歌山県立医科大学）が「病原体センサーを介したサイトカイン産生誘導機構に関する研究」で受賞されました。

それぞれ記念品が授与されました。

7) 第32回日本免疫毒性学会学術年会（2025年）の開催準備

第32回日本免疫毒性学会学術年会は、中西剛 理事を年会長として開催の準備が進められています。

・期日：2025年9月4日（木）～5日（金）

・会場：岐阜市文化センター

・年会長：中西剛（岐阜薬科大学 衛生学研究室）

・事務局長：松丸大輔（岐阜薬科大学 衛生学研究室）

・テーマ：免疫毒性研究のイノベーション創出への貢献を目指して

8) 第33回日本免疫毒性学会学術年会（2026年）

第33回日本免疫毒性学会学術年会の年会長については、理事会（2024年9月18日）において小池英子 先生（国立環境研究所 環境リスク・健康領域）が推挙されました。

9) 関連学会等との連携企画の開催

米国毒性学会 SOT2024 ITSS Meeting (3月Salt Lake City) に出席し、SOT-ITSSとの共同シンポジウム等の開催を検討しています。

第52回日本毒性学会（JSOT）学術年会（2025年7月2日-4日）における合同シンポジウムの開催を企画しました。

3. 事務局及び諸委員会の活動

運営委員会（2023年12月21日及び2024年7月18日）では、会務運営や学術年会開催準備等について議論されました。各委員会等の活動は次の通りです。

1) 事務局（小島理事、窪田委員）

・会員の異動、会員（名誉・一般・学生・賛助会員・休会員）数の推移と会費納入状況の把握、自動退会（会費未納退会）の整理等の事務

・外部からの問い合わせ対応

2) 財務(委員長：小池理事)

・財務管理

・決算書及び予算書の作成

3) 学術・編集委員会（委員長：黒田理事）

学会賞、奨励賞推薦の取りまとめを行いました。またImmunoTox Letterの編集・発行を年2回行い、学会ホームページに掲載するとともに、会員に対してメルマガジンにて周知を図りました。また、英語版の発行も継続しています。

4) 広報委員会（委員長：吉岡理事）

継続して学会ホームページの更新を行い、英文ホームページの充実に努めました。学会Facebookページ、Twitterアカウントjs_immunotoxからの発信も積極的に行いました。

5) 試験法委員会（委員長：坂入理事）

第31回免疫毒性学会学術年会での試験法ワークショップ「免疫原性評価」を企画しました。発表演題は以下のとおりです。

・「バイオ医薬品の免疫原性予測・評価に関する現状と課題」

国立医薬品食品衛生研究所 石井 明子 先生

・「バイオ医薬品の免疫原性評価戦略及び事例紹介」

第一三共株式会社 浜村 えり 先生

・「中外製薬におけるエンジニアリング抗体の免疫原性低減化戦略」

中外製薬株式会社 橋本 永一 先生

・総合討論

AOP小委員会（委員長：大石 巧 委員）

JaCVAMから日本免疫毒性学会が作成依頼を受けたOECD AOP（Adverse Outcome Pathway）における免疫毒性に関するAOP開発に関しては、以下の3件についてジャーナルへの投稿を目指して対応しました。

・AOP315： JAK3阻害によるTDAR抑制

Alternatives to Animal Experimentation (ALTEX) 誌への投稿を目指し、投稿原稿を準備中。

・AOP313： Toll受容体（TLR）7/8活性化による乾癬様皮膚疾患の誘発

Toxicology誌への投稿を目指し、投稿原稿を準備中。

・AOP314： エストロゲン受容体活性化によるエリテマトーデスの増悪

Toxicology Letters誌への投稿を目指し、投稿原稿を準備中。

6) 連携学会委員会（委員長：西村理事）

米国毒性学会 SOT2024 ITSS Meeting (3月Salt Lake City) に出席し、Dr. Victor J Johnson, Dr. Laine Payton Myers, Dr. Jamie DeWittとJSITとの交流について意見交換を行いました（ImmunoTox Letterへ参加報告を寄稿）。

Immunotoxicology Specialty Section (ITSS) のExecutive Committee SecretaryであるDr. Allison Ehrlich (University of California Davis)を指名しました。黒田年会長の招聘に応え、Ehrlich先生から講演の承諾を得ました。

第52回日本毒性学会（JSOT）学術年会（2025年7月2日-4日、沖縄コンベンションセンター）における合同シンポジウム：医学を拓く免疫毒性研究の新展開<職業曝露・腸内細菌・代替法・がん・老化>を企画しました。

7) 将来構想委員会（委員長：串間理事）

「非会員の入会初年度年会費無料制度」は会員増加に寄与しています。第30回年会での非会員発表者11名のうち全員が一般会員になっていただきました。第31回年会でも5名の非会員発表者が登録されています。

将来構想委員会主催の技術セミナーの開催を準備し、学術年会の前日に兵庫医科大学免疫学講座で実施しました。開催にあたり、テーマの希望や参加の意思について全学会員を対象にしたアンケートをもとに実施した。

審議事項

(1) 評議員候補

柴田 寛子 先生（会員番号：681）

国立医薬品食品衛生研究所 生物薬品部

推薦者：吉岡 靖雄 評議員、中村 亮介 評議員

武村 直紀 先生（会員番号：785）

大阪大学大学院薬学研究科 生体応答制御学分野

推薦者：黒田 悦史 評議員、吉岡 靖雄 評議員

(2) 第33回学術年会（2026年度）年会長

小池 英子 理事

国立環境研究所 環境リスク・健康領域

理事年会費の増額時期について

【経緯】

- 学会財政の健全化を目指して、昨年度の理事会・総会において、一般会員のうち理事の年会費を2,000円値上げする案（8,000円→10,000円）が提案・承認された。
- 実施時期について、昨日の理事会で議論され、今年度の会費から増額することが承認された。

【今後の対応】

- 今年度の年会費を既に納めた理事
⇒増額分2,000円の請求を行う。
- 今年度の年会費を未だ納めてない理事
⇒HPから8,000円のお支払い＋増額分2,000円の請求を行う。
- 来年4月からHP上で理事年会費10,000円のお支払いができるようにシステムを移行する。

日本免疫毒性学会 第1回 JSIT Travel Award for SOT 案

会員の優秀な研究成果が米国毒性学会（Society of Toxicology, SOT）で発表され日本の免疫毒性学研究の発展と、JSITとSOTのImmunotoxicology Specialty Section（ITSS）との交流が促進されることを期待して、「JSIT Travel Award for SOT」を新設する。**応募締切：2024年11月15日(金)**、**採択決定：12月中旬予定**

【応募条件】

- 第31回日本免疫毒性学会学術年会にて一般演題（口頭・ポスター）の発表をしていること。
- The SOT 64th Annual Meetingに演題登録を行い現地で発表することが応募時点で予定されていること。

【採択数,助成額】

- 採択数：2件（上限）
- 助成額：1件あたり5万円

【審査要件】

- 選考は、第31回日本免疫毒性学会学術年会の演題要旨および第64回SOTの要旨案により、審査を行う。年齢制限は設けないが、同レベルと判断された場合は、若手を優先する。

【採択後の責務】

- 採択者は、SOT参加時にITSSのmeetingに参加すること。
- 何らかの事情によりSOTに参加・発表できなかった場合には、助成金を返還すること。
- SOTでの発表後の提出書類を求める（SOT参加証とSOT演題抄録のコピー, SOT/ITSS参加レポート）。

【応募方法】

- ① 応募Googleフォームより登録する。
- ② 登録したGoogleフォーム(受信した自動送信メール)を以下の学会事務局メールアドレス jsit_office@accelight.co.jp 宛に転送し、発表予定SOT要旨案ファイルを添付する。

日本免疫毒性学会事業計画（案）（2024年10月から2025年9月）

1. はじめに

2024年度も2023年度と同様の活動を予定しております。年会は中西年会長の下、初めて岐阜市で催されます。また、昨年度に引き続き、JSIT ImmunoTox Protocolの作成と会員限定ホームページでの公開、さらにPosition Paperの作成と公開を継続して行います。このPosition Paperは2023年6月に米国FDAが非臨床における免疫毒性評価に関するガイダンスを最終化したことで本学会としての考えを示すものですが、議論の展開によってはICH S8ガイドラインの改訂提案にもつながるものと期待されます。一方で、学会活動を支える財務は繰越金が少なくなる年が多く、昨年は歳出削減策を講じましたが、引き続き会員増による収入増につながる施策を考え、会員の皆様にご提案をしたいと考えております。また、本学会に期待される学術的専門性に対する責任を果たすべく、本学会が委託を受ける事業についても積極的に取り組みます。今年度も学会活動への会員の皆様の積極的なご参加をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

2. 事業内容（活動年度：2024年10月から2025年9月まで）

1) 運営委員会の開催

年2回（2024年12月と2025年7月）、リモート開催の予定です。

2) 理事会開催

2025年9月に岐阜にて開催の予定です。

3) 総会の開催

2025年9月に岐阜にて開催の予定です。

4) 第32回日本免疫毒性学会学術年会（2025年）の開催

中西剛 理事を年会長に2025年9月に岐阜市文化センター（岐阜市）で開催いたします。

テーマは「免疫毒性研究のイノベーション創出への貢献を目指して」です。

5) ImmunoTox Letterの発行

下記の2号の刊行を予定しています。

- ・ 29巻第2号（通巻58号、2024年12月号）
- ・ 30巻第1号（通巻59号、2025年6月号）

6) 学会賞及び奨励賞の選考

第15回（2024年度）学会賞・奨励賞の選考を行います。

7) 第33回日本免疫毒性学会学術年会(2026年)の準備

第33回日本免疫毒性学会学術年会（2026年）の年会長は、理事長が委嘱し、総会で承認を得たのち企画を開始します。

8) 関連学会等との連携

関連学会等との連携により、免疫毒性をテーマとしたシンポジウム等を企画します。

第65回米国トキシコロジー学会学術年会（2026年）におけるSOT-ITSSとの合同シンポジウム開催を企画し、SOT-ITSSおよび関連するSOTメンバーとの折衝を開始する予定です。

日本免疫毒性学会事業計画（案）（2024年10月から2025年9月）

3. 事務局及び諸委員会の活動

以下の活動を予定し、運営委員会（2024年12月及び2025年7月に開催予定）で検討されます。

1) 事務局

- ・会員の異動、会員（名誉・一般・学生・賛助会員・休会員）数の推移と会費納入状況の把握、自動退会（会費未納退会）の整理等の事務
- ・外部からの問い合わせ対応

2) 財務

- ・財務管理
- ・決算書及び予算書の作成

3) 学術・編集委員会

ImmunoTox Letterの編集・発行を年2回行い、学会ホームページに掲載するとともに、会員に対してメールマガジンにて周知を図ります。また、英語版の発行も継続して行います。

第15回（2024年度）学会賞及び奨励賞の選考のため、学会賞等選考小委員会委員長を指名し、受賞候補者の選考を依頼します。

4) 広報委員会

引き続き、学会ホームページのタイムリーな更新を行い、英文ホームページの充実に努めるとともに、Facebook及びTwitterからの発信を積極的に行います。

バナー広告企業が減少していることから、積極的な勧誘を行います。

5) 試験法委員会

第32回学術年会（岐阜、2025年）では、年会長と連携しながらワークショップを開催します。

JaCVAMから日本免疫毒性学会が依頼を受けたAOP（Adverse Outcome Pathway）の開発に引き続き取り組み、原稿準備中のAOP313, 314, 315については論文投稿を予定しています。

6) 連携学会委員会

SOT-ITSSの協力のもと、第32回学術年会（2025年）の特別講演の講師を選考します。

第65回米国トキシコロジー学会年会（2026年3月）でのSOT-ITSSとの共同シンポジウムの企画をITSSとの連絡を密にして進めます。

第52回日本毒性学会（JSOT）学術年会（2025年7月2日-4日、沖縄）における合同シンポジウムを開催します。

第1回 JSIT Travel Award for SOTを推進します。

7) 将来構想委員会

学会の持続的発展を可能とするため、特に若手会員の新規参入者を増やすための方策について検討を続けます。

年会やシンポジウムの形態について模索します。

4. 予算

1) 2024年修正予算（案）（会計年度：2024年4月1日～2025年3月31日）

2) 2025年度予算（案）（会計年度：2025年4月1日～2026年3月31日）

いずれも、別紙のとおりです。

**第32回日本免疫毒性学会
學術年会案内
中西剛次期年会長**